

立命館経済學

第十四卷 第三号

昭和四十年八月

内 容

論 説

敗戦直後における通貨金融政策

の独占資本的性格……………武藤守一 1

A. スミス, D. リカードオ, J. S. ミルに

おける公債に関する理論の展開 I ……………箕浦格良 60

——古典学派における財政思想 (A)——

資 料

キム・スンジュン『南朝鮮における農地改革』……………87

学界動向 共同研究室

120

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十四卷・第一号

論説

民権運動研究の課題と方法……………後藤靖

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅲ……………箕浦格良

——古典学派における財政思想(七)——

社会主義経済学の生成と発展(承前)木原正雄

——「労働支出の法則」について——

資料

イタリア経済の動向……………足立政男

書評

関弥三郎著『社会統計学』……………有田正三

学界動向 共同研究室

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第十三卷・第二号

論説

国家独占資本主義の研究手法……………手島正毅

県外からの勤労所得による

県民所得統計の補正……………関弥三郎

紹介

ツァゴロフ編『政治経済学教程、第

二巻、社会主義』とソ連邦における

社会主義政治経済学の体系をめぐる

論争……………小野一郎

書評

梅津和郎著『現代国際経済理論』……………建林正喜

学界動向 共同研究室

発行所 立命館大学人文科学研究所